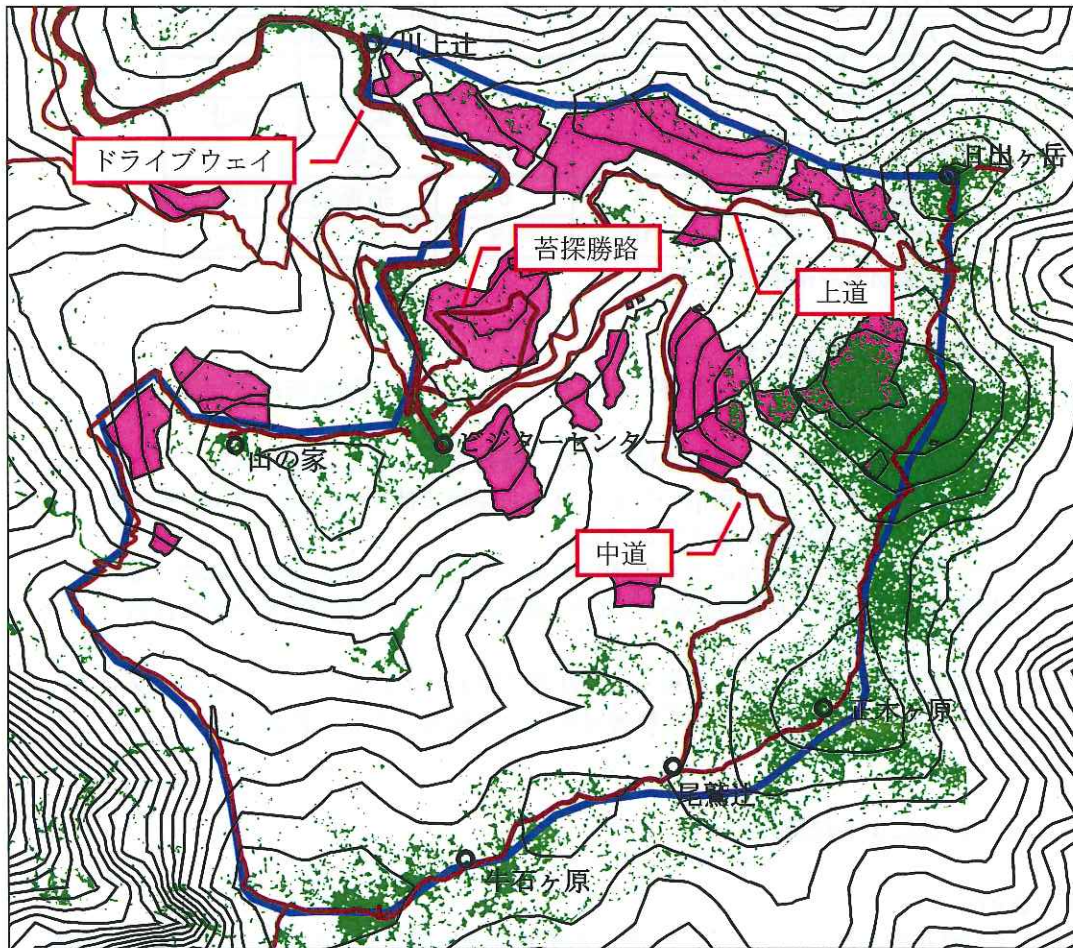


手法別の捕獲状況について

個体数調整の実施範囲を図 1 に示す。



: 東大台、
 : 防鹿柵、
 : ササ

図 1 個体数調整実施範囲

1. 装薬銃による捕獲について

(1) 実施状況

①実施時期及び捕獲結果

装薬銃による捕獲は4月に4日間、12月に3日間行った(表1)。

平成20年度までは、日出ヶ岳、正木ヶ原、牛石ヶ原等で多く捕獲されていたが、今年度は15頭中10頭が川上辻で捕獲された。

表 1 平成 21 年度、装薬銃による個体数調整実施状況

捕獲日	オス	メス	合計	天気	備考
4月15日	0	1	1	雨のち晴	
4月16日	0	1	1	晴のち曇	半日
4月17日	1	5	6	曇	
4月18日	0	2	2	晴	
小計	1	9	10	捕獲効率(0.26)	
12月2日	1	4	5	晴	
12月3日	-	-	-	大雨	中止
12月4日	0	0	0	風雪	
小計	1	4	5	捕獲効率(0.28)	
合計	2	13	15		

※捕獲効率＝捕獲頭数/丁日

【装薬銃による捕獲のまとめ】

- ・天候が悪い日が多く、視界が悪かったこともあり、捕獲があまり進まなかった。
- 天候が良ければ捕獲の可能性は高く、捕獲手法として有効である。
- ・以前は中道沿いや上道沿いなどの東大台全域で捕獲されていたが、今年度はほとんどの捕獲が川上辻であった。
- 今年度のくくりわなによる捕獲圧が高かったため、東大台中心部のシカの個体数が減少した可能性がある。また、装薬銃による忌避効果も考えられる。

川上辻周辺は、西大台と東大台の往来に使われているという GPS データもあるため、装薬銃の集中的な捕獲場所として利用できると思われる。

2. くくりわなによる捕獲について

(1) 目的

平成 20 年度冬からくくりわなを用いた試験捕獲を開始し、主にドライブウェイ閉鎖期に捕獲を実施してきた。しかし、ミヤコザサ草地を餌場として利用するニホンジカ個体数は夏期に増加し、剥皮等による森林への影響も夏期に大きくなることから、夏期を含むドライブウェイ開放期間中における個体数調整の重要性は高い。

そこで、平成 21 年度はドライブウェイ閉鎖期にくくりわなによる捕獲を行うとともに、ドライブウェイ開放期間中における利用者の安全性を確保した上でのくくりわなの効率性の検討等を行うことを目的として、利用閑散期に試験を行った。

(2) 実施状況

①実施時期及び捕獲結果

くくりわなの設置場所は、ドライブウェイ開放期は主に中道付近とし、ドライブウェイ閉鎖期は東大台全域とした。

設置しておいた自動撮影カメラには、一年を通して利用者の撮影は無く、関係者

への周知や登山道周辺に設置した注意看板により、利用者への安全を確保しながら捕獲が実施できた。

4月～10月まではわな1基あたりの捕獲頭数は0.03であったが、11月には0.01に減少した。その後ドライブウェイが閉鎖された12月は0.02であった(表2)。

表2 平成21年度、くくりわなによる個体数調整実施状況

期間	捕獲頭数	のべ設置基数	捕獲効率	備考
4月12日～ 4月21日 (8日間)	19頭	549	0.03	ドライブウェイ閉鎖期
6月16日～ 7月15日 (21日間)	13頭	378	0.03	試験
9月14日～ 10月2日 (12日間)	14頭	446	0.03	試験
11月17日～ 12月1日 (10日間)	5頭	462	0.01	試験
12月2日～ 12月10日 (9日間)	10頭	513	0.02	ドライブウェイ閉鎖期
合計	61頭	2,348		

②捕獲に関係する要因の検証

【設置時期による捕獲状況の違い】

12月からは東大台全域を捕獲地域としたため、これまで捕獲を行わなかった地域でも捕獲を行った。ドライブウェイ開放期にも捕獲を行っていた地域とドライブウェイ閉鎖期のみ捕獲を行った地域にわけてみると、ドライブウェイ閉鎖期のみにくくりわなによる捕獲を行った地点の基数あたりの捕獲数は0.04であったのに対し、開放期にも捕獲を行った地点は0.01と低くなった(表3)。

表3 12月におけるドライブウェイ閉鎖後の設置場所別のくくりわな基数あたり捕獲数

周辺環境及び地点	開放期にも設置したわな (主に中道沿い)	閉鎖期のみ設置したわな (上道沿い、山の家方面)
のべわな数	366(39基×9日+3基×5日)	174(18基×9日+3基×4日)
のべ捕獲数	3	7
のべわな数あたりの捕獲数	0.01	0.04

くくりわなを設置した周辺環境はおおまかに「大規模なササ草原が近くにある場所」

と「森林が広がる場所」とに分けられる。時期ごとに設置場所が異なるわながあるため、すべての時期で設置されていたわなのみで比較すると「大規模なササ草原が近くにある場所」のくくりわな基数あたりの捕獲数は、同一の時期で比較すると顕著な差は見られなかった（表 4）。

表 4 環境別のくくりわな基数あたり捕獲数（全時期共通地点のみ）

周辺環境及び地点	ササ草原が近くにある場所 （中道沿いの斜面上側）			森林が広がる場所 （ビジター寄り中道沿いの斜面下側）		
	6-7月	9-10月	11-12月	6-7月	9-10月	11-12月
のべわな数	273	197	360	105	58	108
のべ捕獲数	10	5	5	3	2	1
のべわな数あたりの捕獲数	0.04	0.03	0.01	0.03	0.03	0.01

※4月については設置位置が異なるため比較せず

【くくりわなによる捕獲のまとめ】

- ・ドライブウェイ開放期と閉鎖期の両方で捕獲を行った地域
→シカが局所的に捕獲しにくくなっている。
- ・ドライブウェイ閉鎖期のみで捕獲を行った地域
→くくりわなによる捕獲がされていなかったため、わなに対する警戒心が少なく、捕獲しやすい。

このため、今後は同じ地域でのみ捕獲を行うのではなく、以下のように東大台全域で捕獲を考える必要がある。

- ・東大台全域を複数地域に分け、各地域でまんべんなく捕獲を行う。
- ・東大台全域を複数地域に分け、季節毎に捕獲地域を変える。
（中道周辺、上道周辺、山の家、牛石ヶ原等）
- ・生息密度調査の結果を踏まえ、生息密度の高い地域で捕獲を行う。
- ・わなの設置場所を決める際に GPS データを活用する。